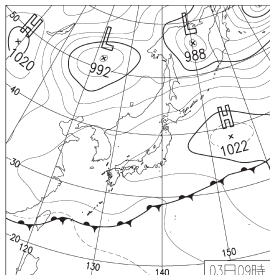
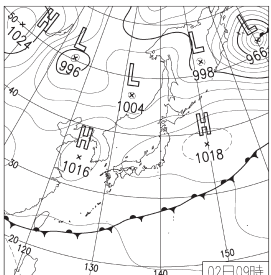
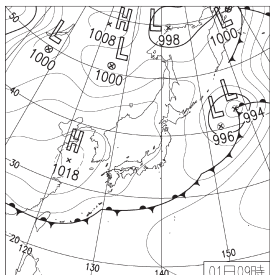
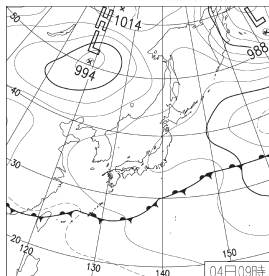


日々の天気図

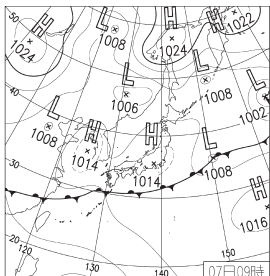
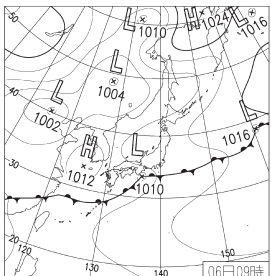
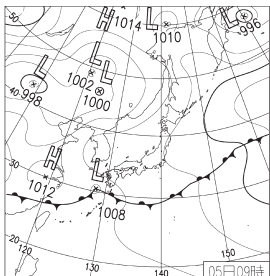
— No. 197

2018年6月

- 15～16日、台風第6号接近し沖縄・奄美で大雨、伊江島で竜巻、日本版改良藤田スケールJEF3評定は初。
 - 18日、大阪府で震度6弱。
 - 20日に高知県室戸、29日にも滋賀県米原等竜巻・突風の発生相次ぐ。
 - 29日、関東甲信梅雨明け発表。観測史上最も早く、6月中は初。
- (気象庁予報部予報課)



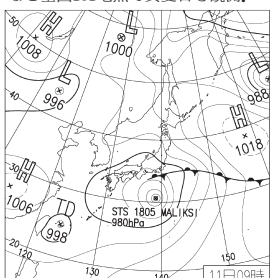
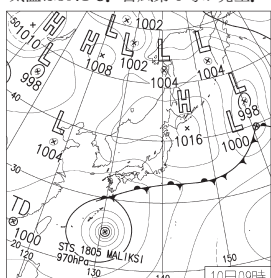
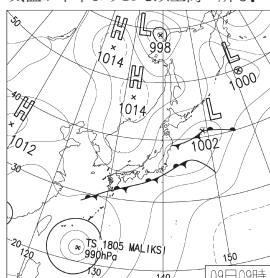
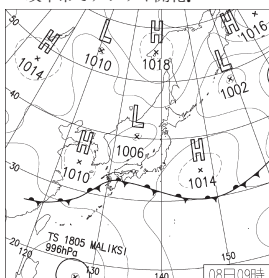
4日(月)大阪で今年初の真夏日
前線に近い沖縄・奄美では曇りまたは雨。その他の各地は晴れで、北海道帯広で34.0℃になるなど178地点で真夏日。長崎・大阪・和歌山・津・岐阜市でアジサイ開花。



5日(火)中国地方梅雨入り発表
前線が九州の南まで北上し、西日本は雨や曇り。沖縄や東日本～北日本も午後には雨の降る所が。北日本を中心に気温が高く、北海道では最高気温が平年より10℃以上高い所も。

6日(水)梅雨入り発表続く
近畿・東海・関東甲信で発表。前線上の低気圧は夜には関東の東。西～東日本は雨で最高気温が20℃以下の所も。北海道では晴れて富良野の最高気温は30.1℃。台風第4号が発生。

7日(木)長崎市でヤマハギ開花
本州南岸の梅雨前線は、西～東日本ではやや南下。前線に近い鹿児島県名瀬では50 mm/1hの非常に激しい雨。北海道津別別の最高気温30.4℃など全国101地点で真夏日を観測。

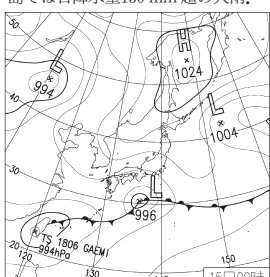
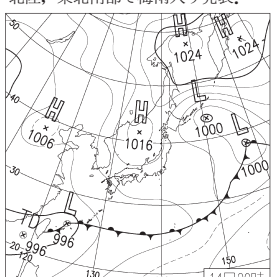
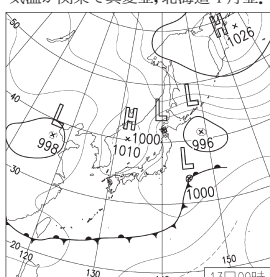
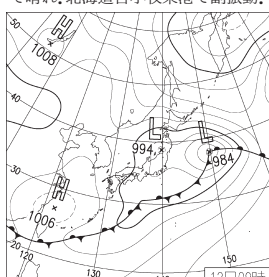


8日(金)台風第5号発生
梅雨前線の影響で西日本は曇りや雨。東日本も晴れから雨に。北日本は低気圧や前線の影響で主に北海道で曇りや雨。沖縄は高気圧に覆われて晴れ。北海道苫小牧東港で副振動。

9日(土)東京で今年初の真夏日
沖縄・奄美は台風第5号の雨雲接近。西日本～東北は北から高気圧が張り出し日中は概ね晴れ。北海道は湿った冷たい空気により曇りや雨。最高気温が関東で真夏並、北海道4月並。

10日(日)北陸など梅雨入り発表
台風第5号や本州の南に停滞する前線の影響で沖縄～東北は曇りや雨。北海道は概ね晴れ。鹿児島県屋久島で57.5 mm/1hの非常に激しい雨。北陸、東北南部で梅雨入り発表。

11日(月)東北北部梅雨入り発表
台風は夜には関東の東を北東進。また、寒気を持った上空の気圧の谷が接近、全国的に曇りや雨。沖縄県下地60 mm/1hは6月1位。東京都三宅島では日降水量150 mm超の大雨。

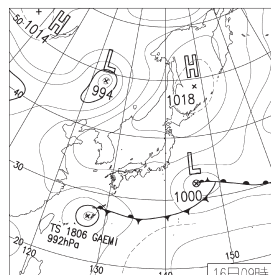


12日(火)北日本気温上がらず
台風第5号は未明に温帯低気圧に。西～北日本は気圧の谷となり日本海側中心に広い範囲で雨。東北北部や北海道は寒気が入り、最高気温が平年より10℃以上低い所も。

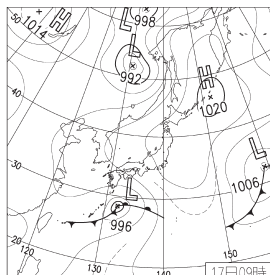
13日(水)北日本は4月並の気温
低気圧や寒気の影響で、北日本や北陸では曇りや雨。前線に近い沖縄は所々で雨。その他は高気圧に覆われて概ね晴れ。北日本の最高気温が平年より10℃以上低い状況続く。

14日(木)西～東日本天気下り坂
前線や低気圧の影響で南西諸島はほぼ終日雨。西～東日本も天気下り坂で、宮崎県延岡で49.5 mm/1hの激しい雨。北海道の最高気温はオホーツク海側などで4月上旬並みが続く。

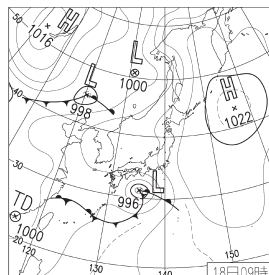
15日(金)台風第6号発生
前線上の低気圧が伊豆諸島付近へ東北東進。オホーツク海高気圧は南に張出す。西～北日本日本海側と九州～四国で晴れた他は曇りや雨。沖縄県奥で53.5 mm/1hの非常に激しい雨。



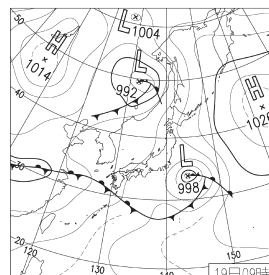
16日(土)沖縄・奄美で記録的大雨
台風は沖縄本島付近を通過、沖縄県栗国の103 mm/1h、伊是名の日降水量312 mmは共に観測史上1位の値、鹿児島県与論島の90.5 mm/1hと日降水量285.5 mmは共に6月1位の値。



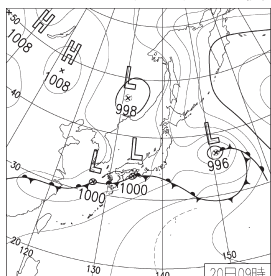
17日(日)群馬県で震度5弱
北日本～関東はオホーツク海高気圧に覆われ気温が下らず。最高気温は4月下旬～5月上旬並となり、北海道では平年より8℃以上低い所も。台風第6号は9時、温帯低気圧に。



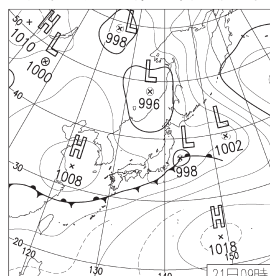
18日(月)大阪府で震度6弱
台風から変わった低気圧が本州南岸を進み東海や関東沿岸を中心に雨。伊豆諸島では大雨となり東京都青ヶ島で47.5 mm/1hの激しい雨。梅雨前線の影響で沖縄・奄美は曇りや雨。



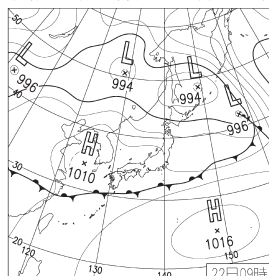
19日(火)大阪府など震度4
大阪府北部では余震が続く、大阪府や京都府で最大震度4。西日本では梅雨前線が北上し、西日本や東海、北陸を中心に雨。鹿児島県さつま柏原で75 mm/1hの非常に激しい雨。



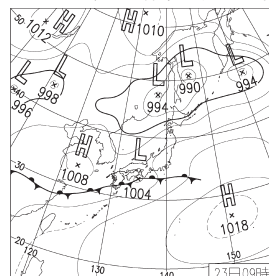
20日(水)西日本非常に激しい雨
梅雨前線上の低気圧が本州付近を東進し全国的に曇りや雨。鹿児島県大口で74.5 mm/1hの非常に激しい雨。和歌山県龍神317.5 mmなど近畿地方等10地点で6月の日降水量1位更新。



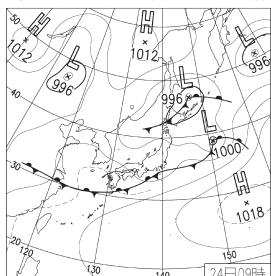
21日(木)奄美で非常に激しい雨
本州の南岸に停滞する前線の活動が活発。鹿児島県平島では56.5 mm/1h、日降水量319 mm。北海道では上空寒気の影響で大気不安定となり、北見枝幸27 mm/1hは6月1位の値。



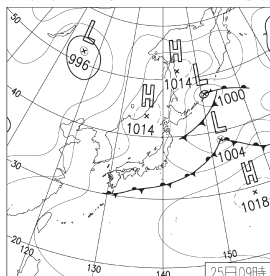
22日(金)引き続き奄美で大雨
鹿児島県付近で梅雨前線の活動が活発に。日降水量233.5 mm、49 mm/1hの激しい雨となった鹿児島県平島をはじめ、奄美を中心に大雨。新潟・名古屋でアジサイ開花。



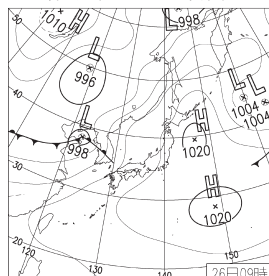
23日(土)沖縄梅雨明け発表
太平洋高気圧に覆われ沖縄は晴れ。西～東日本は本州南岸の梅雨前線の影響で曇りや雨となり九州南部では雷を伴った激しい雨に。北日本ではほぼ晴れたが北海道では午後雨。



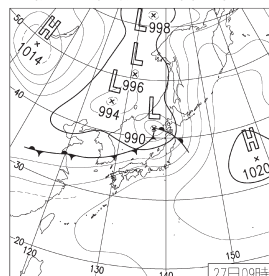
24日(日)全国131地点で真夏日
梅雨前線により奄美、種子島、屋久島、紀伊半島では短時間強雨。鹿児島県宝島で60.5 mm/1hの非常に激しい雨。前線北側では広く晴れ気温上昇。岐阜県揖斐川で最高気温32.4℃。



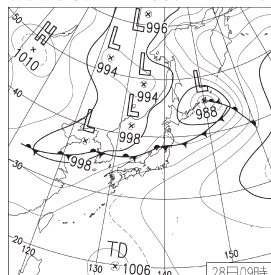
25日(月)今年初めての猛暑日
梅雨前線の活動は弱まり、前線に近い奄美で雨の他は、全国的に晴れや曇り。沖縄～東日本で気温が上がり、栃木県佐野で最高気温が36.4℃となるなど、全国10地点で猛暑日。



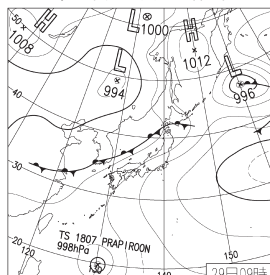
26日(火)奄美の梅雨明け発表
低気圧は夜には日本海へ、湿った空気の影響で九州を中心に、夜には近畿や東海、北陸の一部でも雨。近畿～東日本では日中は晴れ。福井県三国の最高気温33.1℃は6月1位の値。



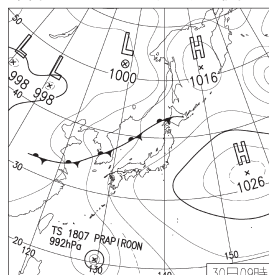
27日(水)全国8地点で猛暑日
前線を伴った低気圧が日本海から北海道へ東北東進。前線の南側は暖かい空気に覆われ、沖縄～東北の広い範囲で気温上昇。徳島県穴吹の最高気温35.5℃は6月として1位の記録。



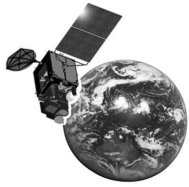
28日(木)日本海に前線停滞
山陰沖から東北に梅雨前線が停滞し九州北部や山陰～北陸、東北で曇りや雨。長崎県石田で74 mm/1hの非常に激しい雨。気温は引き続き高く、各地で最高気温が真夏並に。



29日(金)九州北部中心に大雨
暖湿気や梅雨前線の影響で奄美～北陸と東北北部～北海道は雨。長崎県島原と平戸で83.5 mm/1hの猛烈な雨。その他は概ね晴れて東北部中心に32地点で猛暑日。台風第7号発生。

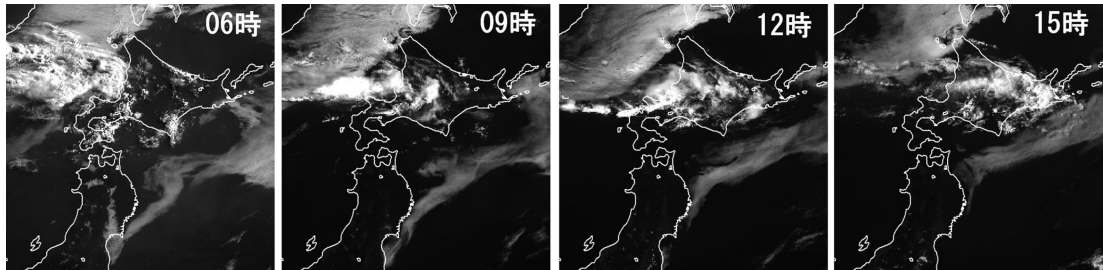


30日(土)西日本で大雨続く
日本海の前線に暖かく湿った空気が流れ込み、長崎県厳原69.5 mm/1hなど、西日本で局地的に非常に激しい雨。東日本～北日本は晴れて、栃木県佐野37.0℃など所々で猛暑日。

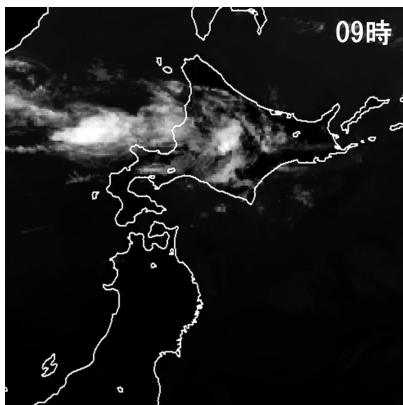


今月のひまわり画像—2018年6月

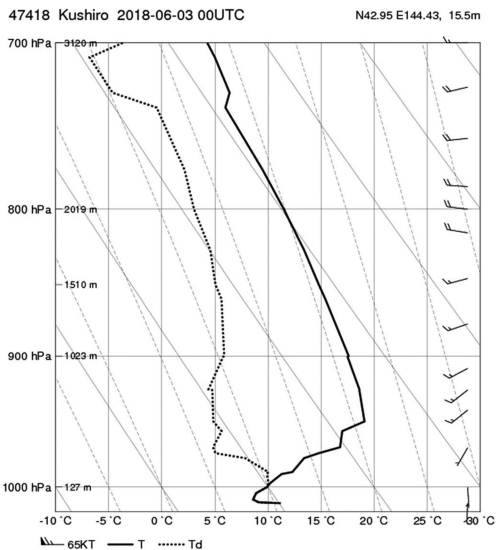
海上の霧



第1図 2018年6月3日06時、09時、12時、15時（日本時間）の北日本付近の可視画像。



第2図 3日09時の北日本付近の赤外画像。



第3図 3日09時の釧路のエマグラム
(実線：気温、破線：露点温度)。

5～8月頃、三陸沖から北海道の東海上にかけては霧が良く発生する。これらの海域の海面水温は親潮の影響で比較的低温であり、暖かく湿った気塊が相対的に冷たい地表面（地面や水面）の上を水平に移動するような気圧配置のときに移流霧が発生しやすい。

第1図は2018年6月3日06時から15時（日本時間）の北日本付近の可視画像である。日本海では北海道の西海上に、太平洋では三陸沖から北海道の南海上にかけて霧が発生しており、黒いキャンバスに白い絵の具を薄く塗り広げたように見える領域が霧である。可視画像を動画で見ると、あたかもアメーバが移動するように、滑らかに形状が変わるように見えることも霧の特徴の一つである。

第2図の3日09時の赤外画像では、北海道とその西海上に白く輝く雲が確認できるが、可視画像で確認できた霧は赤外画像では見られない。地表面付近を漂う霧は地表面とほぼ同じ輝度温度のため、赤外画像だけで霧を判別することは困難である。

第3図は3日09時の釧路のエマグラムである。気温は地表面から高度50 mまでは低下し、その上から約570 mまでは上昇しており逆転層が形成されている。また、地表面から高度約130 mまでは気温と露点温度がほぼ同じで飽和しており、高度約130 mまで霧（上空では雲）が発生していた可能性が高い。雲頂高度約130 mの温度は地表面と大差なく、この図からも赤外画像では霧は判別できないだろうことが想像できる。

これらの海域で発生した霧は、海面水温の日変化の量が小さいため、地表面の気温の日変化も小さく、日中でも消散しにくい。同海域では5月下旬から6月中旬にかけて、何処かで霧が存在し続けた。

(気象庁予報部予報課 西 峰雄)